

## 令和5年度 第2回鎌ヶ谷市消防委員会会議録

- 1 開催日時  
令和6年2月6日（火曜日）午後2時00分から午後3時00分まで
- 2 開催場所  
消防本部3階会議室
- 3 出席者
  - (1) 委員  
鈴木定夫（委員長）  
廣部信隆  
澁谷誠幸  
長瀬正久（副委員長）  
松尾せつ子  
三原百恵
  - (2) 事務局  
消防団長 飯田喜治  
予防課主幹 宮本寛  
消防総務課長補佐 高橋順一  
消防総務課企画管理係長 齊藤聖明  
消防総務課主任消防主事 米野井健  
消防長 矢ノ目健二  
警防課長 久保田保利
- 4 議題
  - 議案1 令和5年度事務事業進捗状況について
  - 議案2 令和6年度予算（案）の概要及び事務事業について
- 5 傍聴者  
なし
- 6 会議の公開、非公開について  
公開

## 7 発言の要旨

- 事務局 令和5年度第2回鎌ヶ谷市消防委員会会議開会を宣言した。  
消防委員会条例第5条第4項による会議の成立及び傍聴者の申し出がなかったことを報告した。
- 鈴木委員長 挨拶  
事務局 会議の開催にあたり、消防団長及び消防長へ挨拶を求めた。  
飯田団長 挨拶  
矢ノ目消防長 挨拶  
事務局 消防委員会条例第5条第3項の定めにより委員長が議長を務めることを伝えた。  
会議録署名人については、申合せにより澁谷委員、廣部委員の2名が任期中は継続する旨を説明した。  
議長へ進行をお願いした。
- 鈴木議長 議案1 令和5年度事務事業進捗状況について説明を求めた。  
事務局 議案1 令和5年度事務事業進捗状況について、職員研修、火災予防、消防団、施設等について説明した。
- 鈴木議長 議案2 令和6年度予算（案）の概要及び事務事業について説明を求めた。  
事務局 議案2 令和6年度予算（案）の概要及び事務事業について、常備消防費として一般人件費、消防事務に要する経費、消防庁舎の管理運営に要する経費、職員研修に要する経費、予防業務に要する経費、警防業務に要する経費、大規模災害時応援に要する経費、消火栓改修事業、非常備消防費として消防団運営に要する経費、消防団装備品整備事業、消防施設費として消防車両更新事業、中央消防署等改修事業、鎌ヶ谷消防署改修事業の内容を説明した。  
また、令和6年度予算（案）は議会議決前の要求額であり、決定されていないことを申し添えた。
- 予防課主幹 最近3か年の火災状況について、火災件数、損害額、被災世帯、出火率の説明をした。
- 警防課長 最近3か年の救急出動件数、令和5年傷病程度別搬送人員の説明をした。
- 鈴木議長 各委員に質問を求めた。  
澁谷委員 資料9ページの(7)大規模災害時応援に要する経費について伺う。  
大規模災害時応援に要する経費とは、どのような場合に使用するのか、また、元日に発生した石川県能登半島地震により、甚大な被害が発生しているが、県外への応援要請の基準はどのようになっているのか、鎌ヶ谷市には応援要請があったのか併せて伺う。
- 警防課長 はじめに、大規模災害時応援に要する経費は、千葉県内外における大規模または特殊災害の発生によって、市域を超えて広域的な消防部隊の応援を行う必要が生じた場合に、被災地で3日間の活動を行うために必要な消耗品や燃料を確保するための経費である。  
次に、県外への応援要請基準については、緊急消防援助隊千葉県大隊等応援等実施計画に基づき、千葉県隊が第1次で出場するのは、東京都、茨城県、神奈川県、埼玉県の1都3県と定められている。また、出場準備都道府県としては、北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、長野県、栃木県、群馬県、新潟県、山梨県、静岡県、1道12県で震度6弱以上の地震が発生した場合に、出場の準

備を行うこととなっている。

元日に発生した能登半島地震では石川県が最大震度7であり、計画上では千葉県隊が出場する応援都道府県には入っていないが、千葉県からの情報に基づき、いつ出動要請を受けても対応できるよう、出動準備体制を整えている。

長瀬委員

資料3ページの(2)救命研修について、救急救命士病院研修等複数の研修が記載されているが、救急救命士の教育体制について伺う。

警防課長

総務省消防庁の通知により、救急救命士が再教育に費やす時間は2年間で128時間以上が望ましいとされている。病院研修は、再教育の一環として位置づけられたもので、市内の救急病院である東邦鎌谷病院と鎌ヶ谷総合病院を研修医療機関とし、2年間で64時間の病院研修を行っている。また、残りの64時間については、心肺蘇生法等を学ぶBLSプロバイダーコース、重症の外傷に対する処置を学ぶJPTECプロバイダーコース、医師の助言を受け症例検討を行う勉強会などに参加している。そのほか、より実践的な訓練として本市救急隊が集合し、隊の連携や救命処置等の技術を確認する救急隊員合同訓練を年2回実施している。

継続的に救急救命士の再教育を行うことで、病院前救護における医療の質を確保し、救急救命処置の技術向上に努めている。

三原委員

2ページ(4)全国火災予防運動の中で11月11日に実施された消防広場はどのような内容で実施したのか伺う。

予防課主幹

昨年度までは、新型コロナウイルス感染症拡大により、消防広場は開催していない。今年度は、4年ぶりにイオン鎌ヶ谷ショッピングセンター及び市役所にて開催した。

イベントの内容については、少年消防クラブ、女性防火クラブによる火災予防啓発品の配布及び煙体験ハウス、消火器取扱い訓練、車両展示、はしご車搭乗体験を実施した。

松尾委員

2ページ(4)全国火災予防運動の中で消防音楽隊火災予防コンサートがきらりホールで開催予定とあるが、今年度の消防音楽隊の出演実績について伺う。

予防課主幹

今年度の消防音楽隊については、10月の北中沢コミュニティセンター祭り、11月の消防広場、12月の鎌ヶ谷駅前クリスマスイベント、1月の消防出初式に出演した。

なお、昨年度3月に開催された消防音楽隊のコンサートは、約340名を集客し、火災予防の啓発を実施した。

廣部委員

資料11ページ3消防施設費(1)消防車両更新事業の救急自動車の追加配備車両について、具体的にどのような内容か伺う。

企画管理係長

はじめに、救急自動車の配備状況について、本市では救急自動車を5台保有しており、各消防署への配備状況は、中央消防署に3台、くぬぎ山消防署に1台、鎌ヶ谷消防署に1台である。

消防車両更新事業による救急自動車(追加配備車両)の内容については、感染症等による救急件数の増加や高齢化社会の進展に伴う救急需要の増加により、年間を通して全ての救急自動車が出場してしまう状況が増えていることを踏まえ、救急出場の多い平日の日中に対応するため、中央消防署に1台増車し救急体制の強化を図るものである。

長瀬委員

能登半島地震における断水被害の報道において、上下水道の耐震化率が50パーセント以下であると取り上げられていたが、鎌ヶ谷市内

- の上下水道の耐震化率について伺う。
- 矢ノ目消防長 鎌ヶ谷市内の上下水道における耐震化率については把握していないため、確認して後日回答する。
- 長瀬委員 承知した。
- 澁谷委員 上下水道の耐震化に関連して、非常用井戸等の整備状況について伺う。
- 警防課長 防災担当課にて整備しているため、概要のみ回答する。  
生活用水として使用できる耐震性井戸付貯水槽が市内の小中学校等6か所に整備されており、災害時には市民が利用できるようになっている。
- 鈴木議長 そのほかにも、水道局と連携して給水車の手配を行うなど、生活用水の確保を行っていく。
- 矢ノ目消防長 救急車の利用を有料化するという自治体の報道があったかと思うが、これに関して見解を伺う。
- 鈴木議長 資料の説明の中で救急件数についても触れているが、鎌ヶ谷市内においても軽症の搬送件数は多い状況であり、救急車の利用が適正とは言えない事案も中にはあると考えられる。
- 矢ノ目消防長 全国的にも救急車の適正利用について広報はされているが、感染症の流行や高齢化社会の進展等も含めて救急車の需要は増加してゆく状況である。  
本市では、令和6年度に日勤者で運用する救急隊を増隊して需要の増加に対応する予定であるが、限りのある救急車を適正に利用してもらえるように広報を行っていく。  
有料化については、全国的にどのような展開をしていくのかは見通しが不透明であるが、救急車の適正利用について考えるきっかけの一つであると考えている。
- 澁谷委員 鎌ヶ谷消防署に更新された古い救急車がおかれているところを見かけたが、先日更新された第7分団のポンプ車と合わせて今後の活用方法について伺う。
- 企画管理係長 救急車については海外に寄贈する予定である。また、第7分団のポンプ車については千葉県消防学校へ有償にて寄贈し、訓練等で活用される予定である。
- 鈴木議長 その他連絡事項を求めた。
- 警防課長 消防委員会の参加する消防団行事予定（消防団辞令交付式、東葛飾支部消防操法大会）について連絡した。
- 事務局 令和6年度第1回鎌ヶ谷市消防委員会開催の時期について、令和6年7月上旬の予定であり、詳細については別途連絡することを説明した。
- 鈴木議長 議事を終了し、令和5年度第2回鎌ヶ谷市消防委員会会議閉会を宣言した。

8 会議録署名人の署名

以上会議経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和6年2月29日

氏名 澁谷 誠幸

氏名 廣部 信隆